

二〇二四年五月二四日

しやぼん玉風と押しくらしして膨れ
外つ国の人波で混む 駅 薄暑
咲きのぼる 葵まゝごと見守りぬ
方丈に座して青葉を眩しめり

康子
もとこ
むべ
澄子

二〇二四年五月二三日

毛虫とる蝶に化けるの見きわめて
残照に映ゆる白さや山法師
梅雨入前収穫急ぐ畑のもの
新緑やダム湖を跨ぐ橋幾つ
卯の花の古道を辿る伊勢路かな
青葉陰踏む 参道の石畳
ふらここの靴裏高く蹴りあげて

明日香
むべ
千鶴
うつき
風民
かえる
ぼんこ

二〇二四年五月二二日

河骨の傾ぎそめたる流れかな
すれ違ふ二の腕眩し 街 薄暑
祝福の薔薇の花びら高く撒く
夕薄暑老の夕餉のはやばやと
雀どちげんげ浄土にかくれんぼ

たか子
満天
あひる
もとこ
康子

二〇二四年五月二二日

序 破急に騒ぐ葉擦れや竹の秋
潔き 鋏づかひや薔薇手入れ

かえる
澄子

熊野路や日の斑につける 遍路杖 風民

天辺に 巨石鼻だす 青嶺かな せいじ

二〇二四年五月二〇日

樹下涼しのみ跡しるき丸太椅子 あひる
麦笛の 爺取り 囀む 下校の子 愛正
花菖蒲ひようたん池を縁どりぬ 康子
サングラス取りて 黙禱ドーム前 みきお
シーソーの子の背に 弾む 夏帽子 かえる

二〇二四年五月一九日

カフェテラスへとウエルカム薔薇アーチ 康子
山容をかき消すやうに五月雨るる 千鶴
五月雨や千年の杜 鎮もれる たか子
打掛に色を添へたる若葉影 康子
気をつけの朝礼の空 燕舞ふ かえる

二〇二四年五月一八日

鶴嘴を振り上げる 額 油汗 みきお
卯波立つ沖の磯より大落暉 千鶴
大書せし孫の命名 墨涼し 康子

毎日句会みのる選・二〇二四年五月二六日